

阪神タイガースの優勝を祈願して

会員 田口 真野



1 阪神 9連敗

私の弁護士人生は、セ・リーグのワースト記録となる阪神タイガース開幕9連敗から始まっている。

それに引きずられ、私の仕事においても、連敗から始まるといやだなと思っていたが、どうにか今まで大型連敗はせずに済んでいるようである。

仕事の失敗談というと、「仕事がうまくいかない理由は、自分に実力がないのか。それとも、運がないからなのか」というボヤキめいたものを耳にすることがある。

失敗を「不運」で片づけるのは簡単。しかし、野球の世界では研究が進み、「運」を客観的に数値化して見極めるための指標が存在する。「BABIP (Batting Average on Balls in Play)」である。

2 投手とBABIP

BABIPとは、打球がフェアグラウンドに入った場合に、安打となった割合のことである。主に、現在の投手の成績が、実力であるのか、はたまた、運であるのか、それを見極めるときに使われることが多い。

どうして、この指標が、実力か運かを見極める基準となるのか。

その答えは、統計学にある。

統計をとってみると、打球がフェアグラウンドに飛んだ場合、安打となる確率は、どの投手であっても約30%であったのだ。言い換えると、打球がフェアグラウンドに飛んだ場合、アウトになる確率は、約70%になるということである。

したがって、BABIPが0.3を大きく上回ると、そのピッチャーは運が悪い、0.3を大きく下回ると、そのピッチャーは運が良いと言われることになる。

しかし、BABIPは、運のみに左右されるわけではない。BABIPを左右する要因は、運だけでなく、野手の守

備力やグラウンドの広さなどがあるからである。もちろん、投手の能力も関係がある。たとえば、威力のないボールを投げると、強い打球が飛びやすくなる。そうすると、守備の間を抜ける打球が多くなることから、ヒットになりやすくなるからである。

3 野手とBABIP

野手においてもBABIPが用いられることがある。ところが、投手の場合と比べて、野手の方が、より選手自身の能力によって左右されやすい。

たとえば、足が速いバッターは、打ってから1塁に到達するまでの時間が短いので、セーフになる打球が多くなる。その結果、BABIPが高くなる。このように、野手においては選手の能力が重要となってくる。

4 弁護士とBABIP

弁護士の仕事がスタートし、阪神戦を見に行くことが難しくなった。文字で試合内容を確認するのにも物足りなさを感じていたところに、野球における「指標」の面白さに気づくことになった。

では、弁護士の仕事において、BABIPのように数値化することは可能なのであろうか。今のところ、そのような指標は存在していないように思われる。

BABIPから学べることの一つは、統計を取る重要性である。確かに、弁護士における仕事は多種多様であり、「成功」は一つには限られない。とはいえ、自分なりに成功したと考える事案と失敗したと考える事案について統計を取って客観的に検討すれば、自分の失敗しやすい傾向とか、自分の問題点とか、いろいろと見えてくるかもしれない。

つまり、仕事も含めて、人生で失敗したときに、単なる「不運」とするのではなく、知識や技術などの自分自身にも修正すべき原因があると自覚して、同じことを繰り返さないように改善していくという姿勢も大切にていきたいと思うのである。